

平成 17 年度 修士課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

障害適応に及ぼす作業の意味に関する研究
—脳血管障害者 10 名の分析を通して—

学位の種類: 修士 (作業療法学)

保健科学研究科 作業療法学 専攻 学籍番号 045305

氏名: 西野 歩

(指導教員名: 菊池 恵美子)

注: 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1 枚 (A 4 版) に収めること

本研究の目的は、障害適応の過程に作業が与える影響を明らかにし、その意味を考察することである。

脳血管障害発症後約 2 年から 4 年経過している 40 歳以上 70 歳以下の脳血管障害を発症した者とした。対象者は、研究者が研究の説明を行い、了解を得られた者 10 名で、発症後平均 31.6 ヶ月経過し、平均年齢 57.9 歳であった。対象者了解のもとインタビュー内容を録音した。

発症から現在までの様子、その間に経験した作業、そしてそれらをどのように感じていたかについて質問し、その語りを傾聴した。録音したものを逐語録にし、修正版グラウンデッド・セオリーアプローチにて分析した。

その結果、逐語録より概念は 223 生成され、時系列に、発症期、リハビリテーション期、現在に整理できた。223 の概念から内容が共通するものをまとめ 21 の一次カテゴリーを生成し、さらにこれから 4 つの二次カテゴリーを生成した。障害適応の過程は、《病の解釈のプロセス》、《対人交流のプロセス》、《意味のある作業のプロセス》、《心の動きのプロセス》により構成されていた。これより、意味のある作業や作業に基づく役割の有無により障害適応の過程に違いが生じたことが明らかになった。

作業療法は、対象者にとって意味のある作業とこれに基づく役割を目標とし、対象者と作業療法士がこれを共有していく必要がある。そのためには、対象者がどのような作業に意味をもっているかを語りから見つけ出す技術が必要とされることが示唆された。